

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100266		
法人名	株式会社 サンボウ		
事業所名	グループホーム めくもりの里(せせらぎ)		
所在地	千歳市住吉4丁目8番14号		
自己評価作成日	令和 3年1月30日	評価結果市町村受理日	令和 3年 5月 17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171100266-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は認知症を患う方々を支援するプロとしての自覚を持ち、その人らしい暮らしが出来るように常に工夫・創造しながら支援させていただいています。また、地域密着型事業所としての役割を理解し、地域と福祉と医療の連携を深め地域へ情報を発信し、地域資源の一つとして機能出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から17年の事業所は、医療施設やスーパー、小中学校がある閑静な住宅地域にある。鉄筋コンクリート造り3階建てで、1階と2階が当グループホームで3階がグループハウス「めくもりの家」となっており、日常や行事を通して交流をしていたが、コロナ禍の現在は全ての交流を中止している。感染予防対策で温度・湿度管理や換気、アルコール消毒と施設運営者を中心に職員一丸で取り組み、利用者、家族の安心に繋げている。外出や家族との面会制限の中、自粛緩和時期に利用者の心身状況を考慮し、玄関で数分の面会や電話対応、ミニドライブ、受診の際車窓から外の様子を窺える機会を設ける等支援している。又、ラジオ体操、百人一首、かるた等の室内レクレーションを増やしたりしてストレスの解消に努めている。災害対策は近年の大きな地震や想定外の災害に備え、新たにマニュアル作成、備蓄などは母体法人と相談しながら、事業所備蓄の増強や管理を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	開設当時から掲げた理念は、玄関や事務所などに掲示し、日々のケアで確認したり職員間で話し合い実践に結び付けている。又、会議でも話し合い理念の共有に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のイベントへの参加もあり、定期的に交流を図ることが出来ていたが、現在、コロナウイルス発症により、地域とのつながりが減少している。しかし、地域の方や食品会社の方より、励ましのお手紙や食品、日用品などの物資の提供を頂き、サポートしていただいている。	町内会総会や町内各行事に参加したり、事業所菜園の手入れで地域住民が参加するなど様々な交流をしていたが、現在はコロナ禍で自粛をしているが、町内会から支援物資のマスクや励ましの手紙、地域食品会社から食料品、日用品を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解や支援の方法を地域の方に向けて活かしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告している。コロナウイルスの感染予防として入館制限を行っているため、事業所職員内での話し合いを行い、紙面での報告書の提出をさせて頂いている。	運営推進会議は家族、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長など多くの参加で開催していたが、現在コロナ禍で書面会議を年6回開催している。活動報告や身体拘束等、次回開催内容をまとめた議事録を各参加者に報告し、参加者から意見や要望を聞き運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡をとり事業所の実情ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは、介護情報や各種書類の提出で助言や意見を仰ぎ、協力関係に努めている。行政から委託運営の医療連携会やグループホーム絆の会合同研修に参加し、事業所の取り組みを積極的に伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議を定期的に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を年4回開催している。内部研修で虐待防止について年1回実施し、身体拘束については弊害について知識を深めながら、身体拘束をしないケアに努めている。外に出たい利用者には付き添って歩く等、利用者が落ち着くのを待つ丁寧なケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議の中で話し合い虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学んだり個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が利用者様やご家族様の不安や疑問点に対し十分な説明をし理解や納得をして頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時やお電話いただいた際など、意見、要望を聞いて業務に反映させるように努めている。	家族にぬくもり通信を毎月発行して、利用者の生活状況を報告している。家族との面会自粛しているが、玄関先のドア越しで会えるよう支援し、その時に家族からの意見や要望を聞き、今後のケアに活かすよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて管理者は運営に関して職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は職員と個人面談を年2回実施し、職員の自己評価と意見や提案を聞き母体法人に報告し、運営に反映されている。コロナ禍による感染症予防処置で母体法人より新たな加湿器や空気清浄機が増設されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各フロアのリーダーから報告を受け、必要に応じて見直し等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会への参加、関係者との教育方法の検討・相談など、個々のスキルアップに繋がる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千歳市の地域密着型事業所の集まり「絆の会」や「ちとせの介護医療連携の会」へ参加し意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安、要望などに傾聴し本人様の安心を確保し信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っていること不安、要望に傾聴しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人さまと家族様が必要としている支援を見極め他のサービス利用も含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器洗い、食器拭きを手伝って頂いたり、生活を共有しながら支えあえる関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の絆を大切にしながらご本人の意思を尊重し支えることを支援している。ご本人様の支援について、必要に応じてご家族様と相談させて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの感染予防により面会の制限は設けているが、電話等での会話ができるよう家族との関係や知人との関係が途切れないようにしている。また、ご家族様へは、ご本人様の状況を電話や毎月のお手紙で報告させていただいている。	コロナ禍で面会制限の中、玄関ドアを挟んで家族と利用者が面会したり、電話で話してもらうなど支援している。訪問理美容師の来所で馴染みの関係継続の支援に努めている。今後、コロナ禍の状況を把握しながら、ミニドライブ等で馴染みの場所へ行ける様検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を個々に考え利用者様同士が良い関係性で交流できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他の事業所との情報交換を行いご本人やご家族との支援に努めている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で一人ひとりの行動や会話等から意向をくみ取り、意思表示の困難な時には職員全員で検討している。	利用者日々の関わりの中で出来るだけ声かけをして、思いを把握するようにしている。思いを言葉で伝える事が困難な利用者場合には表情や行動から本人の思いを汲み取り、利用者の思いを職員全員で検討し共有している。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活情報や基本情報をご家族様からの情報を通じて職員間で共有し把握している。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、記録、申し送りの情報を共有し現状の把握に努めている。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の中でより良く暮らすための課題、ケアのあり方について話し合いアセスメントを計画作成を行っている。	介護計画は利用者や家族の希望を聴き、職員の気づき等を参考にしながら、短期3か月、長期6か月で見直して家族に説明し確認印を得ている。状況が変化した際は随時見直しを行っている。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果に気づき、記録に記入し職員同士が確認することで良い支援が出来るように努めている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのときに必要な要望や希望に対しても可能な限り柔軟な支援サービスの多機能化に努めている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し安心して暮らすことが出来るよう努めている。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や情報の共有と情報提供を行っている。	利用者と家族が希望するかかりつけ医受診の継続を支援している。家族同行の受診もある。協力医は月2回往診、訪問看護師が月2回の健康管理を支援している。歯科や他専門医も都度受診し、利用者と職員の健康診断は年1回実施している。				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中で気づきを訪問看護師へ相談している。病状の変化が見られた際には、看護師や往診医へ連絡を取り、相談・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関との連携をとり入院や退院、相談も常に行える関係性を築くよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状況に応じてご家族様や医療機関と相談し今後の方針について話し合い必要に応じて在宅医療の取り入れて支援している。	入居時に「重度化ケアに関する指針」を説明し利用者や家族に同意を得ている。協力医療機関とは24時間連携の体制が整っており、重度化した際は、随時家族と話し合い、その都度状態に合わせて看取り対応についての同意書を作成している。ここ数年は看取りの利用者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを確認できる所に置きすぐ対応できるようにしている。研修等に参加し訓練なども行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。マニュアルを基に避難方法の確認、実施している。	年2回の避難訓練は小学校、地域住民参加で行っていたが、現在はコロナ禍により職員と利用者のみで訓練を実施している。又、近年の複合災害を想定した自主訓練などを実施しているが、この災害に対応したマニュアル整備することを検討している。	複合災害に向け、マニュアルを再整備し避難経路や家族・町内会などへの連絡網を確立したり、地域との協力体制を構築し、また、備蓄については法人の協力を得るなど複合災害対策に取り組んでいくことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声掛けや、時には親しみやすい言葉掛けもありますが尊厳やプライバシーを損なわないよう対応している。	理念を念頭に施設運営者、職員は利用者の人格や尊厳を損なわない言葉づかいや態度に気を付けるよう対応している。個人情報等の書類は事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中や行動などから本人の思いや希望をくみ取り自己決定が出来るように働きかけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に本人らしい生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が以前生活されていた時の服装などを確認したり、入居時に持参された衣服に合わせて、好まれるような身だしなみが出来るよう支援している。また、その人らしさの身だしなみの中にも、身体状態に合わせた素材も検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLに合わせてその日の体調を考慮しながら役割を持って、一緒に調理や片付け、掃除などを行っていただいている。	職員が食材を買いに行き、献立は当日決め、利用者と一緒に調理している。利用者の希望を取り入れたり、行事や誕生日にはお酒を希望する利用者へ提供したり、出前のお寿司などで、食事を楽しんでいる。1週間分の献立は写真に撮り、壁に掲示している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録や温度版に残し協力医療機関の栄養士に指導を仰ぎながら支援しています。水分制限の有無も考慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。個々の能力や状況に合わせて、磨き残しなどの確認も含め観察し、必要時には部分的にケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄板を使用し、個々のパターン(時間、声掛け方法など)を把握出来るよう努めている。パットやオムツを使い分けトイレにて排泄が出来るよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導して出来るだけトイレでの自立排泄を促している。パットやオムツ使用は利用者一人ひとりに応じ検討、対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医療機関と連携し、水分の促しや下剤の調整を個々に排便のコントロールを行っている。水分や食事量、生活習慣にも気をつけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望を聞き入れるように心掛けているが、こちらで決めてしまっているのが現状である。	週2回で午前中の中の入浴を基本に支援している。利用者の体調や希望に合わせていつでも入れるよう支援している。感染予防の為に足ふきタオルを都度交換し、マットは除菌スプレーを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり状況に応じて休息をし生活リズムが崩れないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬については薬剤師より説明を受け把握に努めている。日々の観察により変化に気付くよう、体調の確認や、身体の動き、表情などを観察し、状態変化の際には往診医等と相談させていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を見つけ生きがいや喜び楽しみが出来るように支援している。		

グループホーム ぬくもりの里(せせらぎ)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルスの影響もあり、外出を控えている。時折、極少数人数ドライブを検討・実施している。	コロナ禍で外出は自粛しているが、緩和期にミニドライブを行う外出支援をしている。外出を控えている中、日々のラジオ体操やレクリエーションを増やし、心身の活性化に繋がる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内で管理しており、ご本人が現金を所持することは無いが、希望があればその都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話の希望や要望の際に、何時でもやり取り出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物などによって季節感を作るように心掛け居心地良い生活空間づくりに努めています。	共用空間は床暖房で過ごしやすい空間になっている。常設の加湿器を備え、更にクリアライト加湿器を増設しながら、温度・湿度管理を行っている。感染症予防の為に、テーブルにパテーションを置き、アルコールで棚やドアなど除菌対策、定期的な換気を行っている。壁には利用者の書道作品や3階利用者の作品、季節感を採り入れた飾りなど工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間においてはソファなどを配置し一人になれる居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に関しては私物の掲示物やテーブル、ベッドなどの配置も個々に考えて工夫し、居心地良く生活できるよう努めている。	床暖房とパネルヒーターで暖かく過ごせる居室になっている。利用者の使い慣れたタンスや椅子、机等を置き、家族の写真を飾り、利用者一人ひとりが自分らしい居室となっている。利用者不在時は窓を開け、換気に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様が自由に安全な生活が出来るような環境づくりに努めている。		